

## 第6回本会議での意見と事務局の考え方(案)

[凡例]  : 修正あり  : 修正なし(質問への回答、今後の参考等)

(本会議発言順)

項目	主な意見	事務局の考え方
○たてポ記載	④事業1-5-2 たてポや交通系ICカードと定期券との連携の検討について、概要にたてポに関する言及がないので、どのような連携なのかも含め補足してほしい。また、たてポについては、施策2-8 電子決済の対応支援にも再掲した方がよい。(町)	⇒ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 【施策・事業の内容/施策1-5/概要<P.23>】 (前)併せて、交通事業者間での定期券～ (後)併せて、 <u>町内の地鉄電車や地鉄バス、町営バス等について交通事業者間での定期券～</u> 【施策・事業の内容/施策1-5/事業名<P.23>】 (前)たてポや交通系ICカードと定期券との連携の検討 (後) <u>交通事業者間での定期券の連携・共通化の検討</u>
○ドライバー確保	④ドライバーの確保に向けた支援では、ドライバーの移住促進よりも、町民のドライバー就業を支援したり、退職者が交通事業者のところで短時間勤務したりする方が、実現性が高い。(町)	⇒ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 【施策・事業の内容/施策2-6/概要<P.34>】 (前)地域の移動手段を確保する観点から、地域における～ (後)地域の移動手段を確保する観点から、 <u>柔軟な働き方の導入も含めた地域における～</u>
○目標	②数値目標については、県でも年間1人当たり50回の利用を促す目標を定めており、「電車・バスで行こう！」キャンペーンなどの利用促進の取組において、是非連携したい。立山町と他の市町村や県との共通課題については、他の市町村や県と連携して取り組めるとよい。(県)	⇒公共交通施策の推進に当たっては、県や県内市町村との連携は極めて重要であると認識しており、事業化の際には、頂いたご意見も踏まえて検討していきたいと考えます。
○進捗管理	③目標の進捗管理については、目標を達成できない場合には課題を明確化し、見直ししながら実効性のある計画にしてほしい。(県)	⇒本計画に位置付けた施策等を進めていく上で、評価や進捗管理の面は極めて重要であると認識しており、計画の推進に当たっては、頂いたご意見にも留意し取り組んでいきたいと考えます。
○重点事業	④町営バスネットワークの再編については、地域公共交通利便増進事業の活用可能性の検討を含め、担当者レベルで調整させていただきたい。(国)	⇒計画の推進に当たっては、利用者目線、事業者目線の双方に目配せをしつつ、関係機関等とも連携して取り組んでいきたいと考えております。
○説明会	⑤パブリックコメントをアカリエで周知される時に、公共交通を利用しない町民の方に意見を頂いて、その意見にも配慮してほしい。(国)	⇒ご指摘のあった説明会については、頂いたご意見の趣旨も踏まえ、開催したいと考えます。
○目標	①立山線の収支の目標値については、根拠も分かるように示してほしい。(利用者)	⇒富山地方鉄道鉄道線の維持に当たっては、「収支均衡」を前提とした取組が必要であることや、現在検討中である再構築事業実施に当たっても、持続可能性を高めることが必須条件となること等を踏まえ総合的に判断し、前向きな目標として設定したものです。
○財政支援方法	④(1)実態に即した利用者の利便性確保で、財政支援についてはただ町で補助金を出すだけではなく、交通事業者の乗車券を買い上げる形での支援はできないか。加えて、乗った人が得をするイベントとしての施策を考えてほしい。(利用者)	⇒頂いたご意見については、事業実施時の参考とさせていただきます。
○職員ドライバー	④(2)ドライバー確保に向けた支援では、先日、NHKで福井県の職員が京福バスを運転する番組を拝見	⇒頂いたご意見については、事業実施時の参考とさせていただきます。

	し、本町でもドライバーが不足する 場合に職員に運転協力してもらえ ばよいと思う。(利用者)	
○職員ドライ バー	④町の職員が二種免許を取得し町の バスの運転をすることは良いことだ と感じた。(交通安全団体)	
○こどもMM	④こどもMMでは、学校でも公共交 通の乗り方やマナーなどの社会学習 を進めていただきたい。(交通安全団 体)	⇒施策の具体化の際には、頂いたご意見も踏まえ、検討してい きたいと考えます。
○用語解説	⑤パブリックコメント、MMなど分 からない言葉があり、調べながら計 画を読んでいた。(交通安全団体)	⇒ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 【用語解説<P. 57, 58>】 モビリティ・マネジメントの後に略称を追記するととも に、MMを新たに追記します。
○目標	②現状値と目標値が乖離しており、 果たして達成できるか疑問を感じ る。(観光団体)	⇒公共交通は、移動の基盤であるほか、クロスセクター効果な どの多面的効果などをもたらす存在であることから、これを 維持することは町にとって必要不可欠です。これらを前提と して、本計画には、公共交通の維持の必須条件である公共交 通利用者の増加を目指し、町民の皆様や関係者の皆様と心を一 つに、前向きに考動していく必要があると明記しております。 今回設定した目標の中には、ご意見のとおり高めに設定した ものもありますが、こうした考え方の下、達成のみならず、 町民の皆様などに前向きなメッセージを打ち出せる目標設 定とすることが望ましいと判断いたしました。今後は、こう した面を丁寧に説明し、関係者の方々の理解を得ながら計画 を推進してまいりたいと考えております。 なお、目標値については、これに固執するものではなく、毎 年度の進捗管理の中で、必要に応じて見直しを行っていき たいと考えます。
○観光交通	④立山線までアクセスする観光交通 ができれば最もよいが、季節性があ り難しい。町内の観光名所を回れる 観光コースも取り入れてもらえる と、少しでもまちが賑わうと感じて いる。(観光団体)	⇒事業化の際には、頂いたご意見を踏まえ、その具体を検討し ていきたいと考えます。
○新たな交通	④中山間地の高齢者等の足には、小 型のワゴン車を活用し、仕事をリタ イアした方がドライバーとして気軽 に参加できるような仕組みがよい。 タクシーの拠点を設けすぐに配車で きるようなシステムを構築してほし い。(観光団体)	⇒事業化の際には、頂いたご意見を踏まえ、その具体を検討し ていきたいと考えます。
○基本理念	⑤基本理念の「ヒト・マチ・アシタ」 が外来語のようにカタカナ表記であ る理由について、見解を聞きたい。 (利用者)	⇒ご指摘の語句については、主に以下の3つの理由からカタカ ナ表記としております。 1 基本理念の中で特に強調したい語句（キーワード）であ ること。 2 カタカナの有する現代語のイメージが、今の世の中にな じみ、若者や子供などにも受け入れられやすいと考えたこ と。 3 漢字表記やひらがな表記が有するこれまでの考え方や 慣習のイメージを超え、新しい考え方を創っていきたく いの意味を込めたこと。
○目標	②目標のイベント回数を増やすため にも、町民から意見を聞きながら必 要とされるイベントを開催していく 必要がある。(利用者)	⇒事業化の際には、頂いたご意見を踏まえ、その具体を検討し ていきたいと考えます。
○実施事業の 情報発信	④計画の位置付けで示される関連計 画は、全てが公共交通に影響するた	⇒事業化に当たっては、頂いたご意見にも留意しながら検討し ていきたいと考えます。

○新たな交通	め、町の様々な施策にも関連して動きがあるだろう。5割以上の事業の主体として、町民や自治会とあり、前向きに取り組む必要がある。さらに実行の際には、計画に位置付けた事業を理解いただくための努力も必要。他の自治体や東谷地区の取組を参考として、費用があまりかからず、取り組みやすい事業を検討してほしい。(利用者)	
○課題 ○新たな交通	⑤新たな交通モードの検討では、既存事業者の持続性を確保しながら、住民の要望に応える補完交通として、「ちょうどいい」ものになるようお願いしたい。我々も協力するが、住民の理解を得るためのきめ細かな周知にも取り組んでほしい。(タクシー事業者)	⇒頂いたご意見を踏まえ、新たな交通モードの導入に当たっては、利用者目線のみならず、事業者目線にも配慮し、“ちょうどいいもの”となるよう検討を進めてまいります。
○目標	②数値目標については非常に高いと思う部分はあるが、まずは一旦進め、PDCAで問題が出れば速やかに手立てを打っていくことが必要と考える。そのためには住民に公共交通を「自分ごと」と捉える意識を醸成することが重要である。(バス事業者)	⇒頂いたご意見を踏まえ、基本方針4に位置付けた施策・事業を通じて、まずは公共交通利用のターゲットとなる方に「自分ごと」との認識を持っていただけるようなアプローチを行っていきたいと考えております。
○職員ドライバー	④自治体職員の免許取得・運行については、一つの判断ミスが人命や高額な財産の棄損に直結するため不安であり、今後の課題である。(バス事業者)	⇒自治体職員による運行支援については、ご意見のとおり課題は多いものと認識しており、当面の間は、他自治体等の動向を注視してまいります。
○ドライバー確保の取組	④ドライバーとしての本町への移住については、全国規模で就職説明会等の取組を様々な関係機関で発信しており、協会としても取り組みたい。(バス事業者)	⇒頂いたご意見については、事業実施時の参考とさせていただきます。
○サービスレベル	①サービスレベルの運行間隔は、朝夕以外あるいは全時間帯1時間1本間隔でよいのではないかと。(鉄道事業者)	⇒現在の表記については、2本を含むことが強調されており、町民への前向きなメッセージとなるものと考えております。
○背景と目的	⑤背景と目的の記載にある“関係者の「共通認識」”について、正しく理解いただけるよう地域公共交通活性化再生法に記載される、国県、市町村、交通事業者の4者の役割義務について掲載を検討できないかと。(鉄道事業者)	⇒ページ総数の関係上、計画への記載は難しいことから、今後の説明会等の際に、口頭による補足説明等に対応したいと考えます。
○財政負担の軽減	⑤課題の1つである財政負担の軽減は「財源の確保」などの表現にすべきではないかと。(鉄道事業者)	⇒ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 【地域公共交通の7つの課題/課題3名称<P.5>・施策の体系/主な対応課題名称<P.18>】 (前) 財政負担の軽減 (後) 財政支出の費用対効果の向上
○財政負担の軽減	財政負担は、財政支出の費用対効果の向上に集約される。公共交通に財政投資するという側面では、どの自治体でも財政支出は増えていく。その中で効果を上げていくかが中心的な論点になる。(学識経験者)	
○目標	②目標値は、5年間の合計であることがもう少し分かりやすくなるとよい。(道路管理者)	⇒ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 【計画の目標/目標⑦・目標⑧<P.9>】 目標値の前に「5年累計」を追記します。
○情報発信	④施策4-3 情報発信の充実では、「釜	⇒頂いたご意見を踏まえ、当協議会公式X等を活用してまいり

	ヶ淵驛」をよくする会の活動や「立山線かってに応援団」、「地鉄でGO!秋の大冒険!」、「立山あーとれいん」の企画なども含めて啓発し、充実したものとしてほしい。(福祉団体)	ます。
○業務内休憩 ○カスハラ	⑤自動車等のドライバーはインターバルが厳格になったが、鉄軌道には国の規定がなく、現場では運用されていない現状がある。現状を打破するためには、役割を終えたところからは撤退したいぐらいの気持ちがある。議会質問や答弁で、従事者がこれまで怠慢をしていたような報道がなされると、乗務員はお客様から随分とひどいことを言われる。これは大きな問題であり、カスハラにあたる。(労働者団体)	⇒頂いたご意見を踏まえ、施策2-4ほかを通じてイメージアップ等につながる情報発信に取り組んでいきたいと考えます。
○自主運行 ○従事者と町民の意識差	④以前は白バス・白タクとして取り締まられた運送も、制度の変化により自主運行が可能となったが、その裏側にある怖さの両面を把握しておくことが必要である。立山線は、従事者の現場と町民等との意識の差は大きく、この差を縮めるためにできる限り協力したい。(労働者団体)	⇒頂いたご意見を踏まえ、基本方針4に位置付けた施策・事業を通じて、まずは公共交通利用のターゲットとなる方に「自分ごと」との認識を持っていただけるようなアプローチを行っていきたいと考えております。
○サービス向上と経費低減 ○安全性の確保	④公共交通において、住民サービスの向上と費用面・運用面の改善の両面の実現は非常に難しい。利便性だけでなく安全性も重視し、安全は全てに優先するという意識を持って、計画の前提としていただきたい。(公安委員会)	⇒頂いたご意見については、事業実施時の参考とさせていただきます。
○予約式交通 ○混乗	④施策1-2実態に合わせた町営バスネットワークの再編の重点事業は大事であり、予約式の運行路線として空バスを無くしていくのがよい。スクールバス等への一般客の混乗は、実現できれば通学でかなり助かる生徒もいるため検討してほしい。(教育関係者)	⇒頂いたご意見については、事業実施時の参考とさせていただきます。
○評価の公表	③イベントの実施回数の評価を、ホームページ等で周知すれば、更に興味・関心が出る。(教育関係者)	⇒頂いたご意見を踏まえ、興味・関心を惹起させるような情報発信を目指して取り組んでまいります。
○交通ハブ ○イベント	④五百石駅以外で交通ハブを設け本線へ乗り継ぐことができれば、利用者が増加するのではないかと。企業バスの運行により、電車を優先的に利用してもらおうとよい。ウイスキーフェスなど飲酒を伴うイベントの開催はととてもよい。(教育関係者)	⇒頂いたご意見については、事業実施時の参考とさせていただきます。
○目標 ○文言修正	②待合環境の改善の目標値は、施策の目標であって改善目標とは異なっているため、別の目標はないか。(町教育)	⇒町内のバス停留所については、その多くが上屋等もなく快適性が必ずしも高くないものであることから、この部分の解消に取り組むことが、利用者目線での待合環境の改善に直結するものと考えております。
○目標 ○文言修正	②「自分ごと」化するを、「自分ごと」として意識する人の数を増やすなどの文言に変えた方がよい。(町教育)	⇒ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 【計画の目標/目標⑧<P.9>】 (前)公共交通を「自分ごと」化する (後)公共交通を「自分ごと」として意識する人を増やす

○役割・責任	⑤役割・責任分担を負う主体の「町民の責任」は強い言葉であり、町民の理解と協力を得ることが不可欠である。パブコメなどの際には、本計画を分かりやすい言葉で情報発信をしてほしい。(町(教育))	⇒頂いたご意見を踏まえ、丁寧かつ分かりやすい説明に努めてまいります。
○文言修正	④町営バス芦峯寺線の記載で、芦峯寺線「は」という文字が抜けている。 ⑤課題で「リテラシー(利用習慣)を高めることが必要」とあるが、「町民の公共交通の利用習慣を高める」という表現がよい。(学識経験者)	⇒ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正します。 【地域公共交通の7つの課題/課題2/内容<P.5>】 (前) 町民の公共交通に対するリテラシー(利用習慣)を高める～ (後) 町民の公共交通に対する利用習慣を高める～ 【施策・事業の内容/施策4-5/事例町営バス芦峯寺線キャンペーン<P.49>】 (前) 町営バス芦峯寺線地元の～ (後) 町営バス芦峯寺線は、地元の～
○基本理念	⑤基本理念の「ヒト」をカタカナで書く理由について説明しておく方がよい。(学識経験者)	⇒(再掲)ご指摘の語句については、主に以下の3つの理由からカタカナを用いているものです。 1 基本理念の中で特に強調したい語句(キーワード)であること。 2 カタカナの有する現代語のイメージが、今の世の中になじみ、若者や子供にも受け入れられやすいと考えたこと。 3 漢字表記やひらがな表記が有するこれまでの考え方や慣習のイメージを超え、新しい考え方を創っていきたいとの意味を込めたこと。